

大豆跡の稲づくり／営農情報

大豆は水田の転作作物として作付が増加していますが、大豆は同じ圃場で連作すると収量が低下するため、2年位で水稲などに転換せざるを得ません。このような大豆跡の稲づくりでは、前作が水稲の圃場とは違う管理が必要です。

大豆跡稲づくりの問題と対策

転作大豆栽培後の復元1年目水田は土壌からのチッソ発現が多く、チッソ過多になるので栽培管理に注意が必要です。

また、対策として無肥料栽培する場合も多くなっていますが、収量が低い、品質が悪いという問題も起きています。



○倒伏しやすくなる

「コシヒカリ」などの倒伏に弱い品種では倒伏し易くなります。

倒伏すると収量・品質・食味の低下など多くの点でマイナスがあります。

- 対策**
- ①ケイ酸、カリの補給を十分に行う。
 - ②節間伸長期に水を切り、地力チッソの吸収を抑える。
 - ③倒伏軽減剤を散布する。

○いもち病にかかりやすくなる

チッソ過多土壌では天候条件により、いもち病が発生しやすくなります。

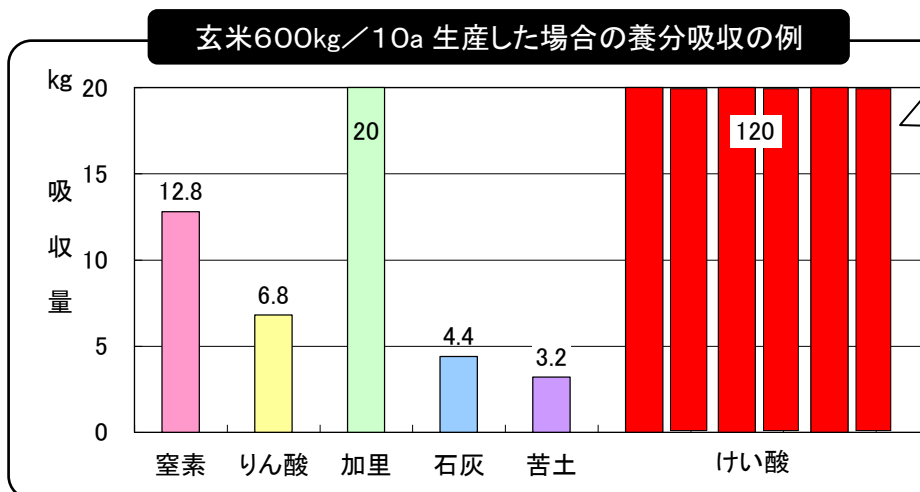
穂いもちは収量が減少するなど甚大な被害の恐れがあります。

- 対策**
- ①いもち病予防・防除農薬を散布する。
 - ②ケイ酸資材を施用する。

○収量、品質が低下する

倒伏、いもち病の発生がなくても、無肥料栽培では登熟・収量が低下しやすくなります。

- 対策**
- ①チッソ以外のカリ、ケイ酸などを十分に施肥する。



稲はチッソよりケイ酸、カリを多く必要とします。

チッソ過多ではなおさら、ケイ酸、カリの施肥でバランスを保つ必要があります。



大豆跡稲づくりに効果的な「けい酸加里」の活用

○けい酸加里でケイ酸とカリを補給

水稲は10a当り 100～120kg ものケイ酸を吸収し、「ケイ酸植物」と呼ばれています。ケイ酸に次いでカリが多く吸収されます。「けい酸加里」は効果の高いケイ酸とカリを同時に施肥できるため、大豆跡の稲づくりに役立ちます。

けい酸加里の肥料成分

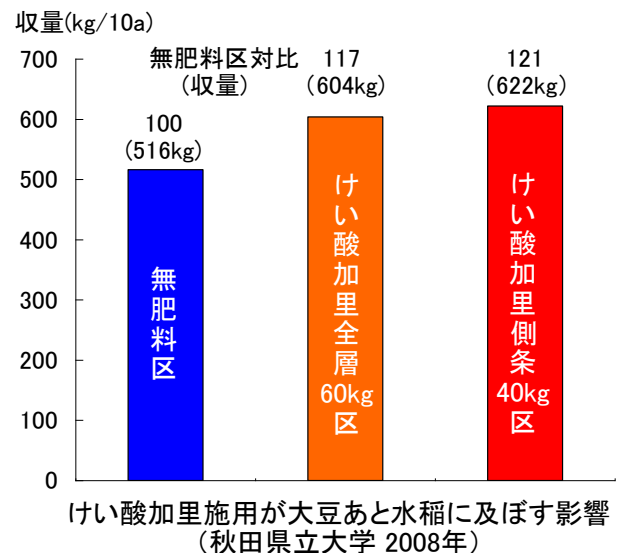
| 保証成分(%) | | | | 含有成分(%) | |
|---------|--------|-------|--------|---------|-----|
| く溶性加里 | 可溶性けい酸 | く溶性苦土 | く溶性ほう素 | 石灰 | 鉄 |
| 20 | 34 | 4 | 0.1 | 7～12 | 2～5 |

○大豆跡稲づくりでのけい酸加里の効果

前年大豆を作付し無肥料で稲づくりをする圃場で、けい酸加里のみを全層に60kg/10a施肥すると17%増収しました。

側条施肥機を活用した省力・低コスト施肥

側条施肥田植機のある生産者は無肥料栽培では施肥機が空いています。この施肥機でけい酸加里を側条施肥したところ、40kg/10aでも全層に60kg/10a施肥した場合と同等以上の増収効果(21%増)がありました。

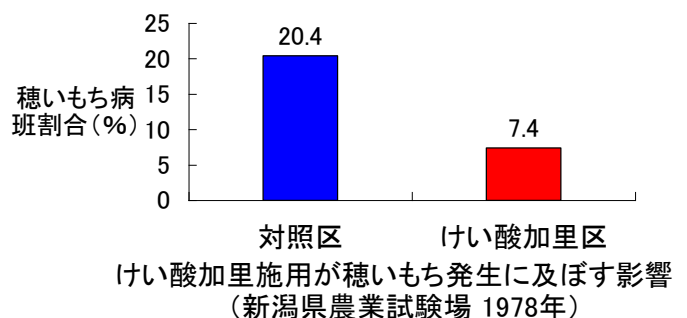


けい酸加里の側条施肥は、少量で効果が高いのでおすすめです。

○けい酸加里は 倒伏、いもち病の軽減にも効果があります。

ケイ酸とカリは稈を強固にし、倒伏に強くなります。また、ケイ酸によりケイ化細胞が強化され、茎や葉が硬くなり、いもち病にかかりにくくなります。

※いもち病の防除は都道府県の防除指針に従って下さい。



◎ 大豆跡稲づくりは無肥料ではなく、「けい酸加里」を施肥しましょう。

| 使い方 | 施肥量(10a当り) | 施肥時期 |
|---------|------------|------------|
| 基肥の場合 | 40～60kg | 耕起前または田植同時 |
| 中間追肥の場合 | 20～40kg | 出穂前45～35日 |

開発肥料株式会社